

## 令和4年度 第2回南丹市社会教育委員会 会議録

日 時 : 令和4年12月20日(火) 午前9時30分～午前11時30分

場 所 : 南丹市美山山村留学センター「四季の里」  
京都丹波高原国定公園ビジターセンター

出席者 : (順不同・敬称略)

社会教育委員 小南仁、清水範子、北村友子、古北真里、大嶋久美子、小泉顕雄  
(欠席委員) 片山智文、岡島賢峰、麻田健治、片山幹雄、宅間治郎、伊藤雅史

事務局 浅田社会教育課長、井尻課長補佐

傍聴人 : 0人

1 開 会 あいさつ 小南代表

2 現地視察

(1)美山山村留学センター見学及び取り組みについて

説明:山村留学運営委員会運営委員長 澤田利通さん

平成10年からスタートした山村留学事業は、今年度で25年という節目を迎えた。ただ、令和5年3月をもって事業を終了し、山村留学センターも閉所することとなっている。

学校再編により、美山の5つの小学校が統合したことで、本来の山村留学の目的を失ってしまったという経過がある。

知井小学校がある時には、地域に対して効果をあげていた。登下校の際にはあいさつや会話があり賑わいがあったが、学校が再編してからバスに乗って学校に行き、バスに乗って帰ってくるので地域の人との触れ合いがほとんどなくなった。地域の行事には参加させるようにしていたが。コロナの関係でなかなか参加させることができず無理な状況になってきた。

来てもらった子ども達や保護者には99%の人が来てよかった、子どもも非常に変わった、もっと早くからいけばよかったという意見を毎年聞いている。ここにきて1年間親元を離れ集団生活を行なうということで、苦労や忍耐力が養われているということが、訪ねてきてくれる子どもたちを見てがんばっている様子を伺うと糧になっていると感じる。

### 【意見交流】

(委員) この山村留学の情報はどうのようにして得られているのか。

(澤田委員長) インターネットで調べてこられるようだ。現在、山村留学は全国100カ所近くあるが、それぞれ比べ、美山ならと来られたこともある。京都府内では唯一の山村留学。10期生までは人集めに大変苦労したが、テレビで取り上げてもらってからほとんど募集をしなくてもよい状況になった。

(委員) そもそもここはなぜ山村留学をすることになったのか。

(澤田委員長) 知井小学校がこの近くにあったが、その将来を考えたときに児童数がだんだん減ってく

る状況にあり、複式学級を回避するために山村留学事業を取り入れた。その同じ時期に知井小学校が全面改築され、木のぬくもりのある校舎で都会に子ども達も勉強させてあげたいということから始まった。

(委員) 今いるのは何年生か。

(澤田委員長) 3年生から6年生の7人。

(委員) 全員が6年生でないということは、6年生以外の子は地元の小学校に帰るのか。ここに来た時には6年生までいることになっていたのか。

(澤田委員長) ここは1年契約となっている。1年で帰る子もたくさんいる。希望する子どもは6年生までいることができるということ。

(委員) 今いる子どもや保護者は、今年度で終了することを承知しているのか。

(澤田委員長) 3月の面接時に伝えてある。それを理解したうえでぜひ来たいということで来てもらっている。

(委員) 山村留学について一定のニーズがあると思うが、なぜやめることになったのか。

(澤田委員長) 先ほども申し上げた通り、運営委員会としては当初の目的が薄れてきたということ。知井小学校を守らなければということと、知井の活性化も目指してやってきました。小学校が再編して美山小学校になったことで学校までの距離も、親近感も遠く離れてしまった。今でしたら4人増えても5人増えても何も影響がない。我々の大きな目標・目的が薄くなった。また南丹市も財政が大変厳しいことも聞くのでやむを得ないということになった。

## 美山山村留学センター内の見学

### (2) 京都丹波高原国定公園ビジターセンター見学及び取り組みについて

説明：京都丹波高原国定公園ビジターセンター 吉永一休さん

ビジターセンターは、平成30年に京都丹波高原国定公園の自然と文化が融合した里地・里山文化の発信拠点として設置された。「見る・感じる」「学ぶ・ふれあう」「知る・伝える」を体感する目的で、季節更新企画展示や「旬感！野道かんさつ塾」、「京都丹波高原国定公園ゼミ」など各種事業を実施している。地域密着型の事業を継続的に展開することで、利用者を増やし続けている。

今回の現地研修では、施設の運営方法や具体的な取組内容について説明をいただいた後、施設見学をしながら委員からは、利用者の状況や工夫している活動、運営状況などについて質問があった。

### 3 その他

特になし

### 4 閉 会 あいさつ 清水副代表